

「異界」へのいざない

—ドイツ、日本、中国の文学・音楽から—

主催/聖徳大学言語文化研究所

後援/松戸市教育委員会 聖徳大学SOA音楽研究センター

日時/平成23年6月5日(日)

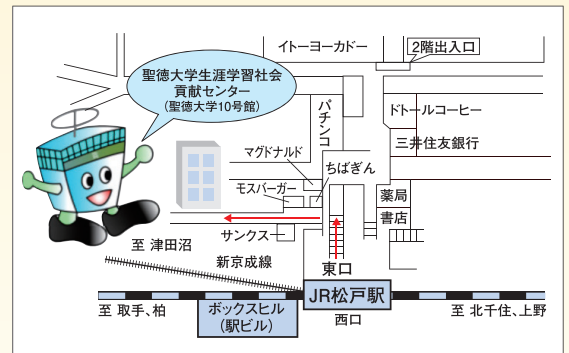
13時~15時30分(12時30分開場)

会場/聖徳大学 生涯学習社会貢献センター
(松戸駅東口徒歩1分)

参加費/無料

定員/100名

※事前申込不要・入退場自由



プログラム

「異界」とは?...

「死後世界」のみならず、「時間的・空間的に異なった非日常領域」「ユートピア」をも指し示す「異界」の表れ方を、ドイツ、日本、中国の文学・芸術作品を手がかりに、学際的かつ多角的視野より比較考察します。

研究発表Ⅰ

異界への越境の音楽表現

— グスタフ・マーラーを中心に —

発表者/山本 まり子

(聖徳大学音楽学部教授)

研究発表Ⅱ

ドイツの民間伝承における異界と異人

— ハーメルンの笛吹き男から
メフィストフェレスまで —

発表者/溝井 裕一

(関西大学文学部准教授)

コメンテーター

大野 寿子(東洋大学文学部准教授)

竹原 威滋(奈良教育大学教育学部特任教授)

高橋 吉文(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)

研究発表Ⅲ

日本の古典文学における 異界への越境とその仕掛け

— 『源氏物語』『夕顔』巻の場合 —

発表者/河地 修

(東洋大学文学部教授)

研究発表Ⅳ

中国の古典文献にみる異界と異人

— 道教「神仙説」を中心に —

発表者/山田 利明

(東洋大学文学部教授)